

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22098	事業名	シティプロモーション推進事業		評価分類	A1			
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署			
	施策の大綱	05:市民力・地域力の活性化		予算科目	会計	01:一般会計				
	基本施策	03:移住・定住の促進			款	02:総務費				
	施策の方向	01:戦略的なシティプロモーションの推進			項	01:総務管理費				
重点プロジェクト	-		目		02:広報活動費					
事業期間	H 29 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	-		部	政策部			
課							広報秘書課 広報G			

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	人口減少対策として、本市が「選ばれるまち」となるため、市の魅力の発掘・磨き上げ・効果的な情報発信を行い、本市の認知度と都市イメージの向上、まちへの愛着・誇りの醸成による定住・交流・関係人口の増加を図る必要がある。	市内外の人	市内の人が、市の魅力を認識して、まちへの愛着や誇りを高め、住み続けたいと思う。市外からは、市の魅力を認知して、訪れたい、応援したい、住んでみたいと思う。	本市の良質な都市イメージについて、市内外のターゲットに対し、市民等の連携等により、共感性や信頼性の高い情報として様々な広報媒体や機会を通じて発信する。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○シティプロモーション戦略の見直し ○シティプロモーション戦略に基づく各種情報発信(専用ホームページ等) ○職員研修の実施	○シティプロモーション戦略に基づく各種情報発信(専用ホームページ等) ○職員研修の実施	○シティプロモーション戦略に基づく各種情報発信(専用ホームページ等) ○職員研修の実施	○シティプロモーション戦略に基づく各種情報発信(専用ホームページ等) ○職員研修の実施
	活動実績 (計画通り実施できたか)	第1期戦略の総括や地方創生会議の意見などを踏まえて、令和4年6月に第2期シティプロモーション戦略を策定した。専用ホームページの運営では、イベント842件、ニュース194件のページを更新した。令和5年1月に亀山駅前に開館した市立図書館を新たな魅力と捉え、同館を紹介するプロモーション動画を制作した。新規採用職員にシティプロモーションに関する研修を行った。			
計画額	事業費	2,800千円	2,800千円	2,800千円	2,800千円
	国・県支出金				
	地方債				
	その他				
決算額	事業費		2,669千円		
	国・県支出金				
	地方債				
	その他		2,669千円		
①期間内事業費(R4-7)		11,200千円	②期間外事業費(R8-)	-	①+②総事業費

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	2,800千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	シティプロモーション専用ページ更新件数	活動	件	計画値 実績値	600/100 842/194	620/120	640/120	650/150
	シティプロモーション専用ページへの訪問	成果	千件	計画値 実績値	116 134	119	122	125
	職員研修の開催回数	活動	回	計画値 実績値	2 1	2	2	2

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
B	第2期戦略の策定によりメインターゲットや都市イメージコンセプトなどを明確化するとともに、庁内関係部署会議の開催により情報共有を行うことができた。専用ホームページによりイベントやニュース情報、まちの魅力動画を発信することで134,025件(前年比+19,894件)のページビュー数を得ることができ、市の認知度や都市イメージの向上につなげることができた。
	まずまず成果を得た

事業の対象	事業の目的
市内外の人	市内の人が、市の魅力を認識して、まちへの愛着や誇りを高め、住み続けたいと思う。市外からは、市の魅力を認知して、訪れたい、応援したい、住んでみたいと思う。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	前年度に引き続き、新型コロナの影響で、まちの魅力を市民に語ってもらうフリップサポーターや個性的な亀山暮らしを紹介するライフスタイルインタビューの取材を実施することができなかった。また、庁内職員を対象とした職員研修を実施することができず、職員自身がシティプロモーションの担い手であるという意識の醸成につなげることができなかった。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性
	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容
	令和5年度で対応する(した)もの 本市の暮らしやすさや魅力を知ってもらうため、イベントやニュース、動画などの情報を引き続き発信するとともに、市民の声や生活の様子など共感性の高い情報発信を行う。職員一人ひとりがシティプロモーションの担い手である意識を高めるため、庁内職員向け研修を行う。
	令和6年度以降で対応するもの まちへの愛着や誇りの醸成と市の認知度や都市イメージの向上を図るため、市内(ウチ)・市外(ソト)を意識したプロモーション活動を継続して行う。また、庁内関係部署と連携して、「ヒト・モノ・コト」の情報共有を図り、効果的なプロモーション活動を行う。

【履歴】	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	B			
事業展開	継続(現状維持)			

1次評価者	政策部 広報秘書課 広報GL 波多野 祐一
最終評価者	政策部 広報秘書課長 末崎 照美